

同志社大学

Adobe Acrobatを活用し、 アカデミック・ライティング指導に新たな方向をひらく



同志社大学・神学部

・1875年、新島襄によりキリスト教精神に立脚した人間育成の場として創立された同志社。神学部は1948年、同校文学部神学科が独立して一学部になった。数多くの著名な神学者、思想家、教育者、社会事業家などを輩出し、現在はキリスト教を基盤とする広い教養人を輩出することを主眼としている

同志社大学 : <http://www.doshisha.ac.jp/>
小原研究室 : <http://kohara.doshisha.ac.jp/>



同志社大学
神学部
小原克博助教授



同志社大学
神学部ゼミ生
工藤万里江さん



同志社大学
神学部ゼミ生
白杵緑さん

大学教育の現場にいち早くインターネット授業を導入し、生涯学習時代に向け「教育コンテンツの社会還元」や「開かれた学び」を推進している同志社大学。そんな学内デジタル化の先頭に立ってきた神学部・小原克博助教授は、これまで自身のインターネット授業において、Adobe PDFを講義のレジュメや受講資料としてWebサイト上に載せてきたが、今度はAdobe Acrobatを学生のレポート提出に導入。特にゼミ活動におけるアカデミック・ライティング（学術文書作成）指導に、Adobe PDFを使った新しい展開を始めた。

Adobe Acrobatとアカデミック・ライティング

通常のクラスでの資料配付だけでなく、卒業論文の指導を含め、ほとんどすべてのゼミでAdobe Acrobatを用いた文章指導を開始したと語る小原克博助教授。特にゼミにおいてはレポート添削に力を入れ、アカデミック・ライティング（学術文書作成）の指導において、Adobe PDF使用の効果が目に見えて現れていると答える。

教師と学生の間でやりとりされる、さまざまな種類のレポート。従来は学生がレポートを作成し、プリントアウト提出したのに対して、教師が赤ペンを入れて返すという作業が繰り返されていた。しかしこの作業には限界があった。「紙だと余白があまりないので、こちらで細かくコメントを入れたい場合にも、マージン上の制約から、どうしても書き込める文字数に制限が出てきますよね」。

また提出レポートにコメントを書いて、いったん学生に渡してしまうと、それで教師と学生間のコミュニケーションは終わりになりがちだ。教師の側に、生徒との学習の履歴が

残らないのだ。

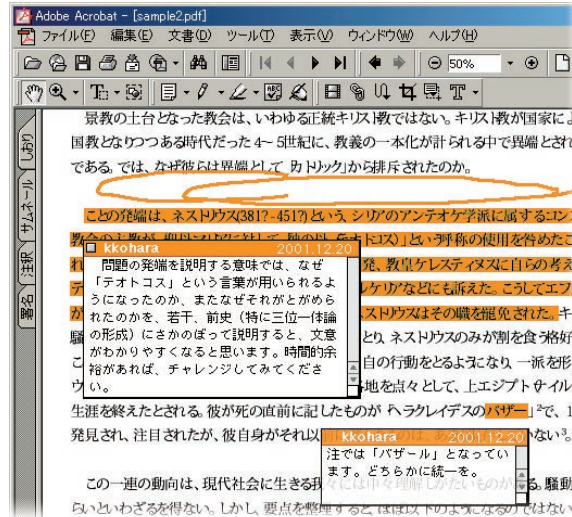
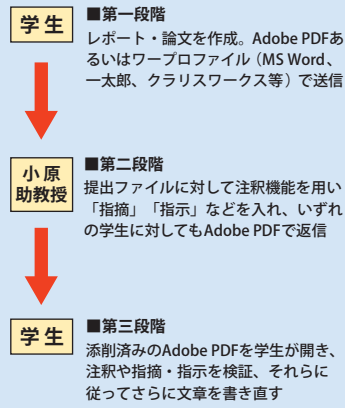
しかしAdobe Acrobatの導入によって、この状況は一変した。教師も学生もAdobe PDFを媒介に、指導や添削の履歴を振り返ることができる。それはお互いの切磋琢磨の道程だ。この学習の履歴自体に、学びそのものの大きな意味があると小原助教授は語る。

Adobe PDFの活用によって 教師・学生間のコミュニケーションは一変する

「現実問題として、たとえば卒業論文や修士論文の提出時など、かなりせっぱつまった状況で、文章の校正をやりとりしなければならないことがあります。いわゆる“滑り込み”状態で出してくる人もいる（笑）。こういった場合、深夜の3時、4時くらいまでメールでやりとりすることがあるのですが、これなど電子メールの発達が可能にしたことで、紙のメディアだとできないわけです」。

「それにこれまでは、学生から送信されてくるMS Wordや一太郎などで作成されたファイルに対して、“何ページ目の何行目のこの表現を、……こうしてください”などとメール上で手問ひまかけて指示していたわけです。しかしAdobe Acrobatを使うようになって、たとえばマーキングしながら注釈を入れることで、校正場所の特定とコメント指示なども極めて簡易化できる。しかも入れる文章の量に制限がありませんので、簡潔に書くことも、場合によっては非常に細かく修正すべき点を指摘することも可能になりました」。

小原助教授の授業プロセス



Adobe Acrobat の 12 種類の注釈ツールを使えば、レポートなどの添削も効率的に行える。また注釈機能を使ってお互いの意見を交換し合うこともできるので、グループ研究などにも適している

これらの学習作業を通じて、単に学習効率を上げるだけでなく、学習の質そのものも深めていけるのではないかと語る小原助教授。同時に、電子化されることによって教育に人間味が失われるのではないかと一部の風評も大きな誤解で、アカデミック・ライティングの世界においては、より親密な人間関係を築いていくことが可能だと氏は指摘する。

図は Adobe Acrobat を活用した、小原助教授の具体的な授業プロセスの一例である。Adobe Acrobat を用いたこれらの教育実践によって、これまで以上に大きな学習成果を引き出すことも可能だ。このプロセスを数回繰り返し、レポート・論文の精度を高め、完成に至る

Adobe Acrobat を手にすることで学生は「共通の言葉」を獲得

Adobe Acrobat を使用することになった同校神学部ゼミ生の間でも、反応が良い。ゼミの学生である白杵さんと工藤さんに感想を聞いてみた。白杵さんは Windows ユーザ、工藤さんは Macintosh ユーザである。

「コメントが返ってくるスピードの速さにまず驚きました。加えて注釈コメントの中身の丁寧さ。Adobe PDF への信頼性は抜群です」と白杵さん。いっぽう工藤さんからは「もっと多様な教育において、Adobe PDF は有効だと思います」という答えが返ってきた。

Adobe PDF には、無償配布の Acrobat Reader を誰でも入手でき、それによって閲覧も印刷も自由に行えるという大きな魅力がある。また学生の中には Windows ユーザ、Macintosh ユーザなどさまざまだが、Adobe Acrobat の導入によっ

て、学生は機種の違いや環境の違いを越えて、書式の整った文章を送ることができる。あるいは特殊文字などを埋め込むことができるメリットも大きい。

「外国語の問題。特に神学部ではギリシヤ語やヘブライ語を使う場合もあります。Adobe PDF なら、そういった特殊な文字もフォントとして埋め込むことができますよね。つまりリテラシーの高低に関わらず、皆で共有して使えるということが、教育現場での大切な条件なのです。この点から言っても、Adobe Acrobat が持つ意味はとても大きいと思います。皆で共通の言葉を得たようなものですから」と、小原助教授もこれらの重要性を説く。

大学教育における Adobe Acrobat の将来性

基本的には教師と学生という対一の関係で、論文指導が行われる通常の大学ゼミ。ところが小原助教授は、ゼミでひとりの学生が発表をしたら、発表後、他の全員がその発表者に対してコメントを書いて出すというシステムをとっている。教師からの意見だけでなく、同じ学生間での違う視点から見た意見が本人に戻るという手法だ。

小原助教授はこのシステムの発展形として、教師と学生達が同じドキュメントをオンライン共有するスタイルを、次のステップとして検討しているようだ。

「ひとつの PDF ドキュメントがあって、これに対して教師もコメントするけれども、同時に学生もそれぞれの立場から注釈を加え、複数の注釈を構成していきながら、レポートや論文の

テーマに検討を重ね、質を深めていく。そのために Adobe PDF を使いながら、ひとつの課題を皆で討議するというスタイルは今後可能だと思いますね。

「また将来的には、海外の大学機関などとの単位互換性の問題においても、PDF の活用は考えべき問題でしょうね。もちろん学術交流においても、PDF は海外とのやりとりで有用性があると思います」。

空間や時間に捕らわれることのない学習スタイルを、自身の教育活動テーマのひとつに掲げる小原助教授。世界のデファクトスタンダードとしての Adobe PDF の可能性、その教育現場での活用にはいろいろな希望や展望をお持ちのようだ。

レポートや論文の PDF 化によるデータベース化と検索システムの構築、さらに Adobe Acrobat eBook Reader® を利用した書籍販売など、大学教育において今後 Adobe Acrobat が果たす役割は、さらに高まりそうな気配が強い。

Adobe Acrobat の主な利点

- ・ワープロ、表計算、グラフィックをはじめ、あらゆるアプリケーションで作成したドキュメントを Adobe PDF ファイルに変換できる
- ・テキストにハイライトや取り消し線を施したり、電子付箋の添付などが可能
- ・複数の関係者がドキュメントにオンラインで同時にコメントをつけられる
- ・外見上の一貫性を保持したまま、印刷するために必要なフォント、書式、画像データをすべて含めることができる